阿蘇の牧野に対する取り組みにおける放牧の位置づけ

The Positioning of Grazing in the Initiatives to Bokuya (Pasture Land) Management in Aso

凌　聞簫
LING WENXIAO

１．序論

（１）研究背景と目的

放牧、採草、野焼き輪地切りなど人の手によって維持管理されてきた、二次（半自然）草原である熊本県阿蘇の牧野は、農業形態や生活様式の変化、畜産業の低迷、農業従事者の減少・高齢化などの理由により、放牧など利用されずに減少傾向にある。阿蘇では地形とともに草原景観が評価され、その維持再生に取り組んでいるが、人の目に触れない牧野では太陽光パネルが設置されるなどしており、その維持管理の仕組みについて検討する必要がある。今まで阿蘇の草原景観を評価する研究は多いものの、草原を含む牧野の観点に基づく管理方策の変遷や、牧野活用を検討する研究は少ない。阿蘇の牧野を未来にも引き継いでいくためには、その恩恵を受け続けられるよう、放牧が営まれていた牧野としての特性を踏まえる必要がある。

本研究はまず、阿蘇の牧野に対する保全と活用の取り組みに関する文献から、牧野に対する取り組みの観点を把握する。次に、牧野に対する今までの保全と活用の取組みごとに、牧野のどの要素が捉えられてきたかを把握し、特に歴史的に牧野の維持管理に深く関係してきた放牧の、牧野の保全と活用における位置づけを明らかにする。その上で、牧野を活用した観光の効果を踏まえて、今後の阿蘇における牧野の持続的な管理方針について検討を行うことを目的とする。

（２）研究方法

先行研究より、取り組みの対象となった要素を設定した。次に、阿蘇の保全と活用に関する計画書など文献調査（表 1）から阿蘇の牧野に対する取り組みの観点を設定し、取り組みの対象となった要素の捉え方と観点の関係及び変遷を分析し、放牧の位置付けを考察した。次に、牧野組合ごと牛の放牧頭数と観光関連資源の分布を把握、牧野ガイド参加者による利用実態および牧野への評価を、アンケート調査から把握した。

２．阿蘇の牧野の概要

阿蘇くじゅう国立公園の有する特徴として、先行研究から、①地形・地質・景観（カルデラ、阿蘇五岳、草原、湿原）、②植物・動物（火山周辺の動植物）、③文化・歴史（野焼き、温泉）、④人の営み（歴史的に営まれてきた放牧または採草）があげられる。これを踏まえて、本研究では牧野に対する取り組みの対象となった要素を、土地利用としての草原（草原）、畜産の一形態である放牧（放牧）、草原性植生（植生）、維持管理作業である野焼き輪地切り（野焼き輪地切り）、カルデラ地形（地形）と設定した。

牧野に対する取り組みの観点を、牛馬を放牧し畜産を営んでいる放牧地・環境省によって国立公園として評価されるとともに草原再生事業の目標となっている自然風景地・集客のための資源である観光地・牧野だけでなく地域の農林畜産全体を捉える文化的景観地と設定した。

３．取り組みの対象となった要素の捉え方と観点の関係及び管理方策の変遷

自然風景地・観光地・文化的景観地の３つの観点からは、80%以上の文献で「草原」が示されていた。「地形」は観光地および文化的景観の観点において80%以上の文献で示されていたが、自然風景地の観点においては半数以下、放牧地の観点においては示されておらず、観点ごとの違いが顕著にみられた。また、「植生」は全体的に示される割合は少なかった。歴史的に牧野の維持管理に深く関係してきた「放牧」は、放牧地としての観点においてのみ多くみられた（表 2）。文化的景観地においては全ての要素を含んでいたが、放牧地においては他の観点と異なった要素の捉え方をしていた。「放牧」に関して、放牧地においては畜産業の継続性の確保が、観光地においては産物であるあか牛の消費拡大が、自

表１　観点の整理に用いた文献と主体

文献	主体	発行年
草原再生に関する管理方策と国立公園管理計画（16篇）	環境省	‘02~22
畜産振興に関する管理方策（12篇）	九州農政局・熊本畜産課	‘96~22
「るるぶ熊本」と観光振興政策（36篇）	阿蘇くじゅう国立公園地域協議会、阿蘇地域振興デザインセンター	‘96~23
「阿蘇の文化的景観」保全調査報告書Ⅰ・Ⅱ、「保存活用計画（阿蘇市版）」（3冊）	阿蘇世界文化遺産登録推進議会	‘16年 ’22年

表２　観点の異なる側面から見る牧野の捉え方

	草原	放牧	植生	野焼き輪地切り	地形
放牧地		○			×
自然風景地	○		△	○	
観光地	○				○
文化的景観地	○	△	△	△	○

（○：80%以上に掲載　△：過半数に掲載　×：掲載なし）

然風景地及び文化的景観地においては、草原維持の方策のひとつとして示されていた。

観点ごとに捉えられた要素の変遷をみると、最初はそれぞれ別の要素を対象としていたが、自然風景地および観光地において示される対象が多様になり、草原・放牧・植生を基本とした取り組みとなっていた。放牧地は他の観点とは異なり、「放牧」を中心として、時々「野焼き輪切り」が示されるにとどまっていた。文化的景観地においては、多くの要素が示されるものの、他の観点への影響はみられず、連携が取れていないと思われる。

４．放牧の現状及び牧野の観光活用による効果

（１）阿蘇市牧野組合ごとの放牧の現状と観光関連資源の関係

牧野における放牧と観光利用の関係をみるために、阿蘇地域の中で牧野組合数が最も多く、観光関連資源が多く集積している阿蘇市の牧野組合ごと放牧頭数の状況を「2021 年牧野組合放牧頭数の統計表（阿蘇市畜産課）」に基づき把握した。

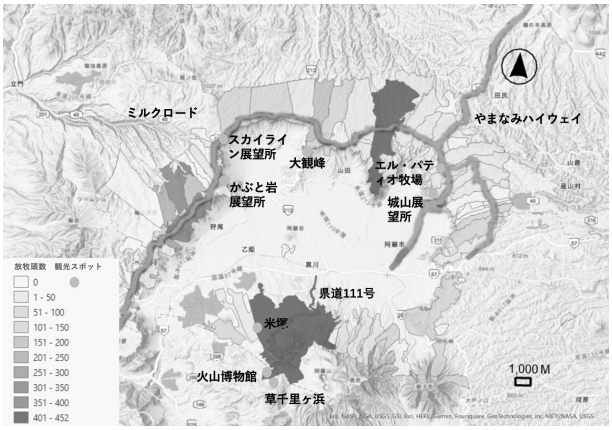

図１牧野組合ごとの放牧頭数（2021 年度）と観光関連資源

阿蘇において主な観光道路及び牧野内の観光関連資源と、牧野組合ごと放牧されている牛の頭数関係をみると（図１）、それぞれ放牧がおこなわれている牧野にあり、観光客は放牧されている様子をみることができる状況にあるといえる。

（２）牧野を活用した牧野ガイド事業

普段入ることのできない牧野に入ることができ、牧野の価値を高めて牧野組合員の所得向上を目的とした牧野ガイドが活動できる範囲は、2023 年現在 4 つの牧野に限られ、活動可能時期は限定的になっており、牧野ガイドだけでは充分収入を得ることはできない。そもそも「牧野」という言葉自体が、現状では一般的に知られておらず、畜産業と結びつく牧野ガイドの特徴が伝わりづらいといえる。

牧野ガイドへの参加者は、ガイドに参加しない阿蘇地域への来訪者とは異なり、阿蘇市内で宿泊し草原の管理などに対する理解は深まる傾向にあるとともに、協力料も多く支払う意思をみせていた。調査対象者が 6 名と少なく、牧野ガイドの影響かは判断できないものの、阿蘇の牧野保全に対して理解を示す来訪者が牧野ガイドを利用することは考えられる。

５．考察

放牧地は、自然風景地としての観点には含まれているものの観光地としての観点には含まれておらず、また、放牧地としての観点においては、観光地や自然風景地の観点が含まれていなかった。こうして、放牧地としての観点は、観光地および自然風景地としての観点から独立したと考えられる。

牧野を活用している牧野ガイド事業において「牧野」という言葉自体が一般的に知られていないのも、上記のように放牧地としての観点が孤立した結果と考えられる。ただ、牧野ガイドへの参加者は、間接的に牧野を支援する可能性があるといえる。

阿蘇の牧野を持続的に維持管理していくためには、従来畜産の生産性向上や未利用地の利用が中心であった放牧地としての観点に、観光客による消費活動と牧野を結びつけるような観光地および自然風景地としての観点を組み込むことが必要といえる。また、観光地および自然風景地としての観点においても、畜産の生産過程である「放牧」をいかに取り扱うかを検討することで、持続的な牧野の維持管理が可能になると考えられる。その手段のひとつとして、牧野ガイドが期待されるところである。

＜参考文献＞

１）阿蘇草原再生協議会（2007）:「阿蘇草原再生全体構想　阿蘇の草原を未来へ」

Abstract: Bokuya (Pastureland) in Aso has been maintained by human hands through grazing, grass harvesting, and field burning however due to changes in farming patterns and lifestyles, stagnation of the livestock industry, Bokuya is decreasing now. The purpose of this study is to examine the sustainable management policy for Bokuya in Aso, based on the characteristics of Bokuya collecting and sorting out the initiatives to Bokuya and grasped the effects of Bokuya utilization. The viewpoint towards grazing of Bokuya is isolated from others. To sustainably maintain and manage Bokuya in Aso, it is necessary to incorporate the perspective of grazing with tourist destination and natural scenic area.